

地球の危機—ストップ温暖化

大口排出源に対する削減義務化を求める 私たちの声を国民署名に託しましょう

地球温暖化は遠い国のことでも将来の問題でもありません

温暖化が急速にすすみ、地球が悲鳴をあげています。

異常気象が世界各地に大洪水や干ばつをもたらしていますが、日本でもこの数年、台風が数多く上陸し、集中豪雨で各地に被害が起きています。海面が1メートル上昇すると国土の80%が水没するマーシャル諸島の国々の被害は深刻ですが、日本でも大都市は沿岸部に集中し、東京ではゼロメートル地帯もあります。

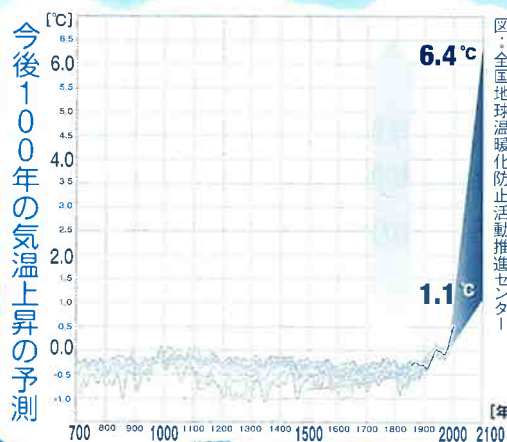
けっして遠い国での話しではありません。西日本でしか見られなかった生物の生息域が北上し、作付けのできない農作物が出るなど生態系に大きな異変がみられます。

そして、将来の問題として温暖化対策を先送りするならば、とりかえしのつかない危機的な状況が目の前に迫っているのです。

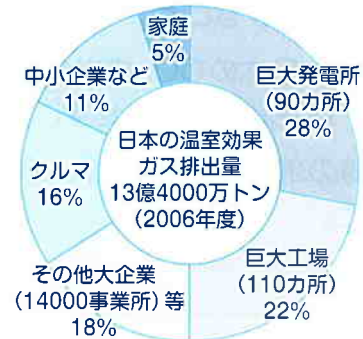
いまこそ、子どもたちの未来のために行動を起こしましょう。

私たちのくらしのなかの省エネ努力を大事にしながら、大口排出源に対する削減義務を強く求めましょう。

いまなら、まだ間に合います。



日本の温室効果ガス排出構造



気候ネットワーク調べ

今なら間に合う。「待ったなしの温暖化対策」

さっそく行動を起こしましょう。まず **国民署名** を!

「地球の危機—ストップ温暖化」は、2009年末までに国際合意をつくるこの1~2年間の取り組みにかかっているとんでも過言ではありません。

大口排出源に対する削減を義務化する制度を導入し、実効ある温暖化対策を日本政府と産業界に強く求めましょう。「ストップ温暖化—エコウェーブ」の一環としてこの国民的な署名運動を2009年12月まで大きく広げましょう。

衆議院議長 殿

参議院議長 殿

大口排出源に対する削減義務化等 実効ある温暖化対策を求める署名

世界の科学者（IPCC）は地球温暖化の脅威を警告しています。

産業革命前からの気温上昇を2℃未満に止めないと、地球規模の回復不可能な環境破壊により人類の健全な生存が脅かされることを厳しく指摘しています。二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの排出を大幅に削減しなければなりません。もう大量生産・大量消費・大量廃棄の社会を変えなければなりません。

2050年には温室効果ガス排出量を「世界で50%削減」が必要であり、先進国は1990年比で2020年には25～40%削減、2050年には80%削減が求められています。

日本の今後求められる対策、政策はCO₂排出の3分の2を占める巨大発電所（とくに火力発電所）・工場の削減対策強化であり、政府の政策を転換すべきです。大口排出源に対する削減を義務化する制度の導入が不可欠となっています。

国内削減がすすまないかぎり国際交渉では信用されません。国内削減に自信がないから後ろ向きの発言になってしまいます。洞爺湖サミットの議長国としてのリーダーシップを発揮しつつ、国際合意に貢献するには、大口排出源に対する削減義務化しかありません。

● 請願事項 ●

- 京都議定書の目標を国内削減で確実に達成し、中長期の大幅削減をすすめるため国内対策を抜本的に強化すること。
- とりわけ、日本のCO₂排出の圧倒的な部分を占める火力発電所と大規模工場の削減対策について、自主計画に依存せず、削減を義務化する実効ある制度を導入すること。
- 日本自身の2020年削減目標、2050年の削減目標を、科学者の警告に基づき早急に国家目標化すること。

氏 名	住 所

※上記個人情報は国会への請願以外には使用しません。